

部局名	産業活力部	所属名	農政課	所属長名	山本 良一	電 話	483-1151 内線3561
-----	-------	-----	-----	------	-------	-----	-----------------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	4096		事務事業名称	農業の郷整備事業					短縮コード	経常		臨時	4096
予算区分	会計	01	一般会計	款	06	農林水産業費	項	01	農業費	目	03	農業振興費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他			根拠法令等		農業経営基盤強化促進法、都市再生特別措置法							
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
農業を中心とした地場産業の振興及び都市と農村の交流の場づくりを目的とし、平成5年にやちよふれあいの農業の郷構想が策定された。 平成15年度に島田地区の水田再基盤整備が県営事業として事業化された事に併せ、郷構想の見直しを行った。 その後、平成22年度にまちづくり交付金事業として採択されたことにより、工事が開始された。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測				総 合 計 画 の 施 策 体 系	6本の柱（章）	06	第6章産業活力都市をめざして						
平成22年度より、まちづくり交付金は社会資本整備総合交付金に統合され、社会資本整備総合交付金の基幹事業（市街地整備分野）に「都市再生整備計画事業」として位置づけられている。今後も、国の施策に注視する。					大項目（節）	01	第1節農業						
					中 項 目	01	1. 農業						
					小 項 目	05	(5)市民とふれあう農業の推進						
					細 項 目	01	①市民と農家との交流促進						
02	②体験型農業の推進												
実 施 計 画 の 計 画 事 業	6095	やちよふれあいの農業の郷整備事業											
計画事業の位置付けの有無			☐	計 画 事 業 期 間		～			計 画 事 業 費		千円		

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	市民（農家，都市住民），観光者							
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成23年度に実際に行ったこと： 市道島田台・平戸線，桑納4号線改良工事及び（仮称）観光交流センター進入路工事 （仮称）やちよふれあいの農業の郷観光交流センター建設（建築）工事							
	※平成24年度に計画していること： （仮称）やちよふれあいの農業の郷観光交流センター建設（建築）（土木）（機械設備）（電気設備）工事 ふれあいの森，広場等整備工事							
意図 （何を狙っているのか）	農業を中心とした地場産業の振興及び，都市と農村の交流の場づくりを目的とし，整備を進める。							
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外							
区 分				単位	22年度	23年度		24年度
					実績	計画	実績	計画
対象指標	指標1	住民数	人	193,274	196,400	192,884	199,500	
	指標2							
	指標3							
活動指標	指標1	施設整備計画面積	m ²	12,536	12,536	12,536	12,536	
	指標2							
	指標3							
成果指標	指標1	施設整備完了面積	m ²	0	0	0	12,536	
	指標2							
	指標3							
上位成果指標	指標1							
	指標2							
	指標3							

コード	4096	事務事業名称	農業の郷整備事業			所属名	農政課
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			平成22年度より26年度の交付金事業として整備を進めており、年度計画に基づき事業の進捗を図る。		
		☐ 手法プロセスの改革・改善					
		☐ 事業規模の拡大・縮小					
		☐ 統合・役割見直し					
	☐ その他						
	☐ 廃止・休止						
☐ 事業完了							
☒ 現状のまま継続							
⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			計画年度に合わせ、工事を実施する。	
			削 減	不 変	増 加		
	成 果	向 上	☐	☐	☐		
		不 変	☐	☒	☐		
		低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など					
（仮称）観光交流センター（島田側）と、新川を挟んだ、ふるさとステーション（米本側）を結ぶ橋の必要性について。 ふるさとステーションとの重複機能（農産物の販売等）の必要性について。 効率的な施設の運営について。 施設整備内容の周知不足について。					

所属長コメント	・都市と農村の交流の場づくりを整備することにより、今後の八千代市の農業の活性化を図るため、事業を推進していく。 ・農業の郷整備事業は、国からの交付金を受け、平成２２年度から平成２６年度の５年間の事業期間で整備を行っていく。				
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続		担当課の評価のとおり、現状のまま継続とする。		
	☐ 手法プロセスの改革・改善				
	☐ 事業規模の拡大・縮小				
	☐ 統合・役割見直し				
☐ その他					
☐ 廃止・休止					
☐ 事業完了					
☒ 現状のまま継続					